

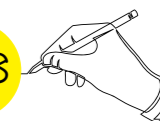


新・文化庁は
令和5年3月27日
京都での業務を開始します。



地域文化創生本部だより

Vol.18



新・文化庁に エール

福寿園
福井社長に聞く
「京都で輝く“新・文化庁”」



創業230年余の老舗茶舗・株式会社福寿園は、日本遺産にも認定された茶処・山城の地において、日本の心と生活を支えてきたお茶づくりのトップランナーとして、脈々と受け継がれてきた伝統に新しいおいしさへの革新を加え、お茶の文化を発信し続けています。今回は、福井正興社長に、将来に向けた事業の取り組みや茶文化振興への思い、さらには来春京都で業務を開始する新・文化庁へ期待することなどを、文化庁 地域文化創生本部の高田行紀事務局長がお伺いしました。

【文化庁 地域文化創生本部】TEL:075-330-6720(代表) 東山区東大路通松原上ル三丁目毘沙門町43-3

茶業界を取り巻く環境や
展望などをお聞かせください

日本独特の生活文化、習慣として、古くから食文化の中心にあった日本茶は、時代の流れで生活様式が変化し、各家庭において急須でお茶を淹れて飲むことが減りました。弊社が1983年に業界初で作った「缶入りほづじ茶」を皮切りに、90年代からは緑茶ペットボトルが普及し、「伊右衛門」など今や広く愛飲されています。一方で、いわゆる高級茶と呼ばれるものは、販売量も売り上げも減っています。

古来から、お茶は薬として利用されてきました。鎌倉時代に喫茶を普及させた宋西禅師は「茶は養生の仙薬なり」と唱えています。私どもは、青々と芽を吹かせこれから大きく伸びようとしている茶の新芽を頂戴し、お茶に仕上げられています。自然からの恵みであるお茶は、喉の渇きを潤すだけでなく、心を癒し、人を元気にする。つまり生活を豊かにし、人生を潤します。また、飲んで良し、食べて良し、香って良しとあらゆる楽しみ方ができるのも大きな魅力です。このことを大勢の方に知っていただきたいと思っています。

100年先の世代に宇治茶を受け継いでもらうために、弊社では、体験施設や茶寮など様々な施設を通して普及を図っています。伝統を守るだ

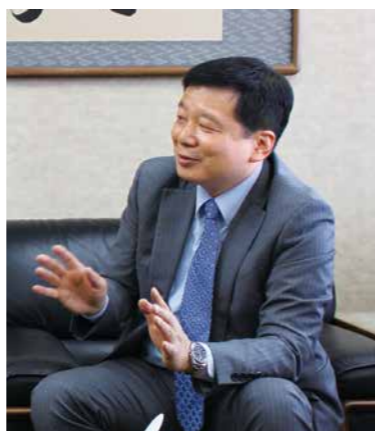
けではなく、AI、IT時代における新しい茶文化の展開に期待しつつ、その準備をしっかりと進めていきたいと考えています。

故名誉会長のご遺志を受け、
茶文化振興のために
ご寄付されましたね

生前、福井正典名誉会長から京都の茶産業の発展と茶文化振興に役立ててほしい、との強い願いを聞いていました。旧富岡鉄斎邸は煎茶道・小川流初代の発祥の地であり、京都商工会議所が文化庁の京都移転を機に「文化と産業の交流」を標榜して茶室などを保存再生する施設整備に意義を感じ、茶道などを楽しみたい学生さんをはじめ若い人達が気軽にお茶会を開くことができる場にもしてほしいと思っています。また、茶文化の発展に貢献された方を顕彰する「福寿園・お茶の文化賞」を創設し、先日、第1回の受賞者を発表しました。いずれも今後の京都の茶文化振興に繋



福寿園 福井社長



がるものと期待しています。京都の都人のセンスで磨かれ日本文化の中心を担ってきた宇治茶は、茶道具のための陶磁器や漆器、着物や和菓子、懐石料理など、様々な文化と深い結びつきを持ち、互いに刺激し合い発展してきました。茶文化の振興には、お茶の普及が不可欠であり、ひいては他の生活文化や地域文化の振興にもつながります。こうした好循環のサイクルを維持発展させるためにも、名誉会長の遺志を受け継ぎ、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

来年3月に京都へ移転する
新文化庁に期待することを
お聞かせください

弊社の家訓「無声呼人」―徳のあるところには、呼ばれなくとも人が集まる―の通り、良い商品、高品質な茶葉をお客様にお届けすることが文化を守ることに繋がると考えています。また、弊社では勤務時間中に茶道を



稽古する時間を設け、従業員にも茶文化への認識を深めていきたいと考え、今、準備を進めているところであります。他の企業様にも呼びかけ、お茶に触れ人生を潤す時間を持つ取り組みを文化庁と一緒にできれば嬉しく思います。生活の中にお茶の習慣を広める、大きな一歩になると考えます。経済的な見方になります。廃業される茶農家さんが増えている現状から、生産者や茶問屋などを応援してほしいですね。例えば抹茶を挽く石臼一つにしても、製造やメンテナンスをする職人が減り技術の伝承に危機を感じています。また急須で楽しむ高品質な茶葉の生産が減れば宇治茶の伝統的技術も衰退する恐れがあります。文化庁が移転することにより身近な存在になり、「文化×産業」の新価値創出のために一緒に取り組めることを期待しています。

ようこそ!わが社のミュージアムへ

茶の集散地として栄えた当時の面影を再現した資料館です。昔の茶問屋の家屋や道具、お茶の栽培や製茶の資料を展示しており、宇治茶の歴史の一端をご体感いただけます。

入館料 500円 (玉露淹れ方体験付き)

休館日 不定休

営業時間 10:00~12:00、13:00~16:00

福寿園 茶問屋ストリート

木津川市山城町上拍東作り道16(福寿園本社西) TEL:0774-66-6280

<https://www.fukujuen.com/>

※上記の他、京都・四条に「京都本店」、宇治市に「宇治茶工房」、けいはんな学研都市に「CHA遊学パーク」などの施設もございます。

